

心に長嶋4K伝説

あす中日戦 始球式でデビュー対決再現



1958年4月5日、長嶋茂雄選手(背番号3)がデビューしたが、金田正一投手の前に4打席とも三振

「金田さん平然、痛快でした」

「ミスタープロ野球」こと長嶋茂雄さん(78)が、金田正一さん(80)から4打席4三振を喫したデビュー戦。この試合を球場でスコアブックをつけながら観戦した女性が、4日に巨人―中日戦(東京ドーム)の始球式で再現される伝説の対決を楽しみにしている。

スコアつけ観戦女性



「K」が4個並ぶ長嶋選手の
名前を指さす松根敦子さん



松根さんがつけたスコアブック

「長嶋さんは張り切っていたわよ。だけど、金田さんは平然と三振をとった。痛快でしたね」。川崎市松根敦子さん(81)は明らかに笑う。巨人・長嶋選手のプロデビュー戦となった1958年4月5日の国鉄(現ヤクルト)戦を、後楽園球場(東京都文京区)のネット裏で観戦した。

試合を見ながらつけたスコアブックは、大切に保管している。「私の宝物。たまに開いて楽しむの。その時のヤジや歓声まで聞こえてくるわよ」。長嶋選手の欄には三振を表す「K」がきれいに4個並んでいる。野球をしていた弟の影響で、スコアブックを手に野球を楽しむようになった。男性でも珍しい観戦スタイルだが、「その方が野球を理解できるの。集中したいから、おしゃべりや飲食はしません」。

当初は東京(現日本ハム)を応援したが、奪三振なしでノーヒット・ノーラン達成という珍記録を持つ大脇照夫投手(愛知県犬山市出身)が気に入り、国鉄ファンに。今も年間5、6試合は、スコアブック持参でヤクルトの応援に出かける。

唯一の400勝投手 金田さん

名勝負の一方の主役だった金田さんは、名古屋市栄(現栄)出身。甲子園を目指していたが、1950年の夏の愛知大会で敗れると、高校を中退して国鉄に入団した。その年に8勝を挙げ、翌年に22勝。以降、14年連続で20勝以上をあげた。

長嶋さんが東京六大学野球のスターとしてプロデビューした58年、金田さんは入団9年目で既に球界を代表する国鉄のエース。この年、自身のシーズン最多となる31勝を挙げる。65年に巨人に移籍。69年10月10日の中日戦で、日本のプロ野球で唯一の通算400勝を達成した。

楽天・星野監督 球宴全パ指揮へ

「盛り上がるなら」

プロ野球のパ・リーグは3日、白紙となっていたオールスターゲーム(18日〓西武ドーム、19日〓甲子園)の全パ監督について、楽天の星野仙一監督(67)が指揮を執ると発表された。星野監督は腰の手術を受けて療養中だが、球宴ではユニホーム姿で復帰する予定。パ各球団が楽天球団を通して星野監督に球宴での復帰を要望し、星野監督も「球宴が盛り上がるなら」と了承したという。

(安藤重浩)